

る環境にあります。

五十六年四月に発表された八十年代熊本県総合計画に、二十世紀の社会を担う青少年の健全育成は県民の切実な願いでありかつ地域社会の重大な課題でもあります。そしてこれは一朝一夕にできるものではなく、持続的な努力が必要であり生涯にわたって家庭・学校・地域社会のそれぞれが互いの教育機能を発揮し、分担しあいながら緊密な連携のもと一体となって進めていかなければならない。このような理念のもとに、青少年健全育成の主要な方策として①青少年団体の育成と活動の支援、青少年指導者の養成、青少年の海外派遣②青少年県民運動の推進③児童館、児童センターの整備促進、青年会館建設支援④青少年の非行防止対策の強化がかかげられています。

これらの方策が私たち県民の日常生活の中にとこまで浸透しているのでしょうか。一番重要な事は計画に示されているように、県民全体の参画による健全育成運動でなければなりません。例えば三千万円以上の予算を用いて

実施されている「青少年の海外派遣」事業は、青少年の国際視野の拡大というテーマを持ち健全育成の重要な方策の一つではありませんが、そこに参加出来る人員には限定があり、参加者がその成果を地域に持ち帰り他の同世代に与える効果は実績としてどの程度示されているのか、又そこまで指導がなされているのでしょうか。

先にのべたような児童館は県下では三十カ所、それより規模が大きい児童センターは六カ所設置されています。が、子どもの行動範囲から考えれば、もっと身近な所であり多くの子どもたちが気軽に利用出来るようきめ細かな配慮が欲しいものと思います。

か では地域にごく自然に子ども仲間集団があり、そこでは異年齢の子どもたちが交わり、遊びの中で生きるための力を身につけながら一人前の成人として育って行ったと思います。つまり子どもはその年齢段階に応じた仲間と社会的な生活を広げて行く事を通して一人前になって行きます。しかし社会環境が大きく変化した現在では、地域の仲間集団は喪失し、

幼児性を残したまま体だけが大人

になって行く青少年が増え、今日の大きな社会問題となっています。そこにたむろしている子どもたちのグループ活動を正常化する事が、青少年の健全育成につながると思えます。鹿本町の高橋地区だけにこのような会が出来たのでしょうか？その点を育成会長の緒方正信さんに伺うと、「やる気があれば」「子どものためだから」と笑って答えられる顔にほのぼのとした温かみを感じました。このように熱意のある大人の働きかけが、とかく難しいといわれる年代の子どもたちを動かしたのである。

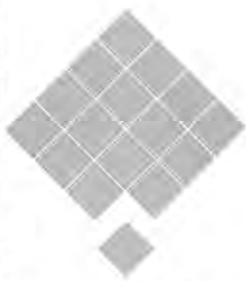
「親が一生懸命なので、自分も責任を感じ、やらなければと思った」「とにかく忙がしい一年だった。大変だっただけに、やったという実感がわいてくる」とリーダーの原口聖司さんと哲也くん。いつでも子どもの味方という表情の山品先生の力も子どもたちを支えています。

こうした地域と子どもの仲間づ

くりを作り出すためには、そこに

住む大人が心を開き、子育ての課題を考え、話し合い共同してとりくむことが大事になって来ます。大人の生きる姿が地域での教育力となるよう努めなければなりません。

行政的には、社会教育の学習の場などで、あらゆる年齢層の人々に、次代を担う青少年をたくましく育てる事の重要性を啓もうする必要があるとあります。と同時に指導者の養成・施設の拡充が望まれます。先の県の主要方策が具現化される事によって県民それぞれが青少年の健全育成を自分の問題として受けとめ、「青少年育成県民総ぐるみ運動」を大きく盛り上げて行く事が期待されます。



明日の熊本



私の提言

先日、当社のソフトウェア開発の関係会社である株式会社南九州システムエンジニアリングの設立にあたって、熊本県を訪問致しましたが、「火の国」の象徴阿蘇山に代表される豊かな自然と古墳・城跡等遺跡・旧跡に恵まれた歴史あるこの熊本の地に、ソフトウェアという現代的な新しい事業をスタートさせることについて、ある種の感慨を覚えるものがありました。

先ず富士通株式会社を簡単に紹介させて頂きますと、当社は昭和十年に設立され、まだ創立五十年に満たない若い企業体であります。当初は、交換機とか電話機とかの通信機を製造・販売する会社でありましたが、その後なんとか独自の技術開発に努めながら、部品・コンピュータ・半導体と事業を拡大し、今日ではお陰様でエレクトロニクス産業の一端を担うまでに成長することができました。

現在は情報社会の時代といわれておりますが、これはLSI等の高集積度素子を中核に、頭脳にあたるコンピュータと神経にあたる通信とが

ソフトウェア開発に通じた熊本気質

富士通株式会社社長 山本卓真

有機的に結合して、複雑高度な情報通信網を形成し、社会的進歩が急速に進められていくものと期待されているものです。既に銀行のオンライン・システムあるいは鉄道の座席予約システムなど、私達の日常生活に密着した情報サービスは数多くありますが、これらのシステムが更に発展進歩を遂げて、社会生活の向上・行政の効率増進・資源の効率活用など様々な面で役立てられていくことが予想されます。

こうした情報システムの発達を促す上で大切なものはソフトウェアの開発であり、その重要性はここへきて一段と深まってまいりました。コンピュータの普及でソフトウェアの需要は飛躍的に増大し、中には「二十一世紀には、地球上の全人口おそらく四十五億人前後が全員ソフトウェア開発者となってもまだ足りなくなるであろう」とまで予測される方もおられます。富士通は、このような将来の事態に対処するため、特にソフトウェア開発の充実に最大の努力を傾けております。この場合、利用者に対するきめ細かなサービスが

実現させるには、それぞれの地域特有の業種・業態に合わせた専門的なシステムを開発し、ユーザーに提供していくことが求められます。

富士通は既に大阪・福岡・名古屋・千葉など地方の中核都市にソフトウェア会社を設立して、地元ユーザーへのサービス向上と地域還元を努力を傾けてまいりました。今回、この熊本県内にも全国で十三番目のソフトウェア会社を設立し、南九州地区におけるシステム・エンジニアリングの開発を通じて、地域社会に少しでも貢献できることを念願としていられるのであります。こうした地方ソフトウェア会社の展開にあたっては、一、開発環境が整備されていること、二、地元の有能な人材を活用できること

などが、とりわけ大切な要件となります。そうした点で、この熊本県は、まず研究開発にふさわしい自然環境と、また不知火・有明地区が新産業都市に指定されるなど、これから産業的にも大きく発展する可能性を持っていることが指摘されると思われま

教育面では、熊本大学をはじめ伝統ある教育機関から優秀な技術者が輩出され、豊富な人材に恵まれていることは大変に心強いところでありま

す。熊本県の県民性は「肥後モッコス」の言葉に代表されるように、古くは菊池・阿蘇氏の時代から、加藤・細川両家の時代に及んで純粋一徹な気骨の精神が育まれ、ともすれば現代人に欠けがちな意思の強さを今も受け継がれていることと承っております。

ソフトウェア事業は、開発者のパーソナリティに依存する面が非常に強く、そうした意味で熊本県人の優れた特性がよく発揮されて、創造的で斬新的なソフトウェアの開発が実現されていくことを期待したいと思います。恵まれた環境と優れた人材を土台に持つこの熊本県が、情報産業の集積度を一段と高めていくことは間違いのないものと思われま

す。富士通が、今回の企業立地を通じて、多少なりとも寄与することができれば幸いです。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。